

# 七小校長室便り

開校51年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.7

令和5年(2023年)12月14日

## 毎年の積み重ねから

12月も半ばとなりました。本校では、各学級や学年において、いよいよ2学期のまとめをしているところです。また、2学期は、学期末にその年の年末を迎え、新しい年を迎える準備もします。年度とその年の関係からすると、学校は4月からその年度が始まりますので、2学期は、教育活動や様々な取組の途中となるため、新しい年を迎えることを意図的に取組の中に入れることにより、学校生活を通して意識させることとなります。例えば、書初めなどがその一例といえます。



また、2学期を振り返ると同時に、その1年を振り返ることをしたり、冬の季節の行事を特活として取り組んだりしながら、季節の変化や日常の社会生活を考えさせたり感じさせたりする取組も行います。

学校というところは、毎年の様々な取組を積み重ねることで、社会の一員となるための訓練的な一面をもち、社会の縮図的な場所として、様々な経験をさせていく場でもあります。子供たちの成長を、昨日より今日、今日から明日へと図ってまいります。日々の計画的で意図的な積み重ねと各取組における時間を大切にしていけることにより成長へと繋げてまいります。また、本校は、これまでも行ってきたように、目の前にいる子供たちを見つめ、個別最適な学びを大切にするとともに、協働的な学びができるよう努めてまいります。

## 来年度への思い

今年度の取組の中心は、教育目標の重点である「やさしく」第二期として更なる高みに向けて、取り組んでまいりました。例として挙げるならば、「やさしく」の具現化のために、(5月までは、コロナ禍の対応が必要ではありましたが) 以下のような取組を行ってきました。

- ・見守り会や地域の皆様との協働によるあいさつの励行
- ・全校児童が集まったの体育館における全校朝会
- ・縦割り班活動による児童同士のかかわりの推進
- ・学習におけるペアでの対話や複数人のグループによる対話学習
- ・くるみ学級の児童が通常学級で学びを行う交流及び共同(協働)学習
- ・特別支援学校の児童が来校して交流する副籍交流
- ・運動会における低学年・中学年・高学年編成の2学年の交流を通じた表現運動への取組
- ・道徳の授業改善を通じた児童の心の育成 等

これ以外にも、「やさしく」の心を耕す取組について、それぞれの学年や学級でも、それぞれの状況に応じて行っていることもあります。(例としては、低学年のふわふわ言葉、ちくちく言葉等)

前回の校長室だよりでもご紹介をしました笑顔寄席も、一流のプロの方々の芸や歌、人となりに触れることにより、心を豊かにしたり、様々な触発を受けたりすることで、子供たちを情操面で育てることに繋がり、ひいては「やさしく」の取組に対して、より良い影響となっていくと思われれます。(笑顔寄席の主演者の皆様の、サインを職員玄関の事務室上に掲示しました。)

また、実際にQ-U調査(学校満足度調査)の2回目の結果においても、個人差はありますが、全体的に学校が安心で安全な居場所になっていることを示している結果が出ています。本校の子供たちが、更に「やさしく」心を豊かにして関わりあえる子供たちであるよう、来年度においても「やさしく」を追求してまいりたいと思います。

具体的な取組については、現在、学校評価、保護者の皆様や地域の皆様からのアンケート、学校評議員の皆様からのご意見等を参考にさせていただきながら、来年度の教育活動の方針となる教育課程を編成して、国立第七小学校の52年目を迎えることができるよう努めてまいります。

児童の心身ともに成長を図るには、保護者の皆様のご理解とご協力がなくては始まりません。これまで以上に、様々な共通理解を図り、学校と一緒に取組んでいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

## PTAとの連携

P T A並びに保護者の皆様には、今年度においても、学校の様々な教育活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

また、今年度のP T A活動については、様々にP T A二役の皆さんと連携し、運営委員会の開催や学校行事の対応などを確認しながら進めていただいています。特に、運営委員会の開催については、役員をされている皆さんの負担にならないように、開催内容を吟味して、必要などころで行うように工夫をされています。

更には、来年度に向けたP T A活動における体制や取組等についても、これまでの内容を見直したり、検討し吟味したりしながら、より良いものになるように努めていただいています。本校の教育活動がP T Aや保護者の皆様、地域の皆様のより身近で、より理解しやすいものとなるように、また、P T Aや地域の皆様との連携において協働した取組となっていくように学校としても努めてまいります。七小のチームワークを様々な連携においても高めていきたいと思ひます。

## 今年一番の想い

人生において、節目と思われる時や年があることを、私自身はとても大切にしています。 実は、今年、節目の年と思われる出来事がありました。

学校においては、これまで様々に教育活動を支えていただいたり励ましの言葉をいただいたりした方の（とても、残念ではありますが）訃報でした。本校にとって、とても有り難い存在でありました。お元気になられることを 祈っておりましたが、思いは届きませんでした。

この場をお借りいたしまして、衷心よりご冥福をお祈りするとともに、本校のよりよい教育活動の実現に向けて更に努めることを決意いたしました。

私個人では、大学入学当初から薫陶を受け、人生の指針や学びをたくさんいただいた方が 老衰により天寿を全うされました。合唱団の指揮者としての出会いもたくさんあり、私の人生の「恩師」でもあります。その方からは、「特立而独行」（特立して、独行す）との揮毫も頂いており、言葉の意味にある『世の中の風潮に左右されず、自分の信念を貫く』ことを大切に、これまで生きてきました。今も、その方の振る舞いや声を思い出すこともできます。

今年、私にとっても、大きな節目の年となりました。本校に校長として着任して3年間、様々な特別な年を過ごしてきておりますが、来年は、いやまして充実の年としていくことを改めて心に決めているところです。

皆様にとっては、どんな年となりましたか。時間がありましたら、振り返られるのもよい機会となるかもしれません。

## 【校長のつぶやき】

今年の10月頃になりますが、本校の外国語活動の授業に、フィンランド国籍の方がゲストティーチャーとして来校されました。日本に短期間ではありましたが、ホームステイをされている方でした。お名前をお聞きしたところ、Maiju Sipilainen（マイジュ・シピライネ）さんと教えていただきました。（表記として正確ではないかもしれませんが。）職員室で初めてお会いし、フィンランドの方とお聞きした時に、ふっと心の中に、ある歌が思い出されました。その曲は「フィンランディア」といいます。その場では、覚えている限りとなってしまいましたが、鼻歌交じりにお聞かせしたところ、涙を浮かべられながら聞いていただきました。歌い終わった後に、この曲は、フィンランドの方にとっては、国歌的な歌であり、フィンランドの方たちが自分たちの国を大切に思うことを表現している曲と歌でもあることが分かりました。私としては、軽い気持ちで歌ってしまったので、とても申し訳ない思いになり、改めて歌わせていただくことをお伝えいたしました。

外国から日本に来られた皆さんにとって、母国のことに関する歌や曲、時には、あいさつ文などにおいても、とても感激され、おもてなしの心が友好の懸け橋になることを、これまでの合唱団の取組の中で経験してきました。にもかかわらず、少し軽率な行動であったと反省をしました。多くは練習することはできませんでしたが、改めて、フィンランド語の歌の発音に気を付けて、歌の心が少しでも届くようにと、再来校される機会に歌わせていただきました。前回とは違って、心を込めて歌わせていただきました。心と心が通じる時間となりました。言葉は通じなくても、人の心は、音楽を通して伝えることができると、改めて実感をしました。

「音楽に、国境はない。」本当にその通りだと思ひました。



北欧フィンランド  
の国旗です。⇒

